

指標名: 企業物価指数(2008年8月)

発表日 2008年9月10日(水)

～先行き緩やかに鈍化していく見込み～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 エコノミスト 中本 泰輔

T E L : 03-5221-4549

(単位: %)

		国内企業物価		最終財		国内企業物価 (連鎖指数)		輸出物価		輸入物価	
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
07	1月	▲ 0.1	1.5	▲ 0.5	▲ 1.0	▲ 0.1	1.2	1.3	4.9	2.9	10.6
	2月	0.0	1.2	▲ 0.1	▲ 1.2	▲ 0.1	0.9	▲ 0.1	3.3	▲ 2.0	4.3
	3月	0.2	1.4	0.0	▲ 1.1	0.2	1.1	▲ 1.3	2.5	▲ 0.3	4.4
	4月	0.8	1.9	0.1	▲ 0.7	0.7	1.5	1.4	3.4	3.3	7.0
	5月	0.3	1.7	0.1	▲ 0.5	0.2	1.4	1.4	6.9	3.5	11.5
	6月	0.1	1.8	▲ 0.1	▲ 0.5	0.1	1.5	1.2	6.5	1.6	10.6
	7月	0.7	1.9	0.2	▲ 0.4	0.6	1.5	▲ 0.3	4.7	▲ 0.2	8.6
	8月	0.0	1.6	0.0	▲ 0.7	0.1	1.3	▲ 3.1	0.8	▲ 2.2	4.2
	9月	▲ 0.1	1.3	▲ 0.1	▲ 0.8	▲ 0.1	1.0	▲ 1.0	▲ 1.0	▲ 1.0	2.2
	10月	0.3	2.0	0.2	▲ 0.3	0.2	1.8	0.7	▲ 0.6	3.3	7.1
	11月	0.2	2.3	0.2	0.0	0.3	2.2	▲ 2.6	▲ 2.3	▲ 0.7	8.6
	12月	0.4	2.7	0.4	0.4	0.4	2.4	0.5	▲ 2.0	4.1	12.7
08	1月	0.2	3.0	▲ 0.2	0.7	0.2	2.7	▲ 2.5	▲ 5.8	▲ 2.2	7.1
	2月	0.5	3.5	0.4	1.2	0.4	3.2	0.5	▲ 5.2	1.6	11.0
	3月	0.6	3.9	0.2	1.4	0.4	3.4	▲ 3.0	▲ 6.8	▲ 2.7	8.3
	4月	0.7	3.9	▲ 0.8	0.5	0.7	3.4	2.4	▲ 5.9	4.9	10.0
	5月	1.1	4.7	1.1	1.5	1.0	4.3	1.8	▲ 5.6	4.3	10.8
	6月	1.0	5.7	0.5	2.1	0.8	5.0	2.8	▲ 4.1	8.2	18.1
	7月	2.2	7.3	0.6	2.5	1.9	6.4	1.2	▲ 2.8	2.8	21.6
	8月	▲ 0.1	7.2	0.1	2.6	0.0	6.3	0.5	0.9	2.3	27.1

(出所) 日本銀行

○ 8月の国内企業物価は11ヶ月ぶりに前月比マイナス

8月の国内企業物価は前月比▲0.1%、前年比+7.2%とコンセンサス（同+7.2%、レンジ：同+5.8%～同+8.0%）通りの結果となった。前年比では極めて高い伸びが続いているものの、前月比では11ヶ月ぶりにマイナスとなった。前月比の内訳をみると、スクラップ類（前月比▲29.9%、寄与度▲0.35%ポイント）、非鉄金属（同▲2.5%、寄与度▲0.08%ポイント）などがマイナスに寄与し、鉄鋼（同+1.2%、寄与度+0.08%ポイント）、化学製品（同+0.9%、寄与度+0.07%ポイント）、石油・石炭製品（同+0.4%、寄与度+0.04%ポイント）などがプラスに寄与した。

個別にみると、スクラップ類は鉄くずの価格が大きく下落したことから、大幅なマイナスとなった。鉄くずはアジア向け輸出が減少したことや鋼材価格高騰による国内鋼材需要の落ち込みによって鉄スクラップ需要が減少したことから価格が大きく下落した。一方で、鉄鋼や化学製品は原材料価格高騰の価格転嫁が進んだことから引き続き上昇している。

先行きについてみると、国内企業物価の伸び率はこの先緩やかに鈍化していく公算が大きい。9月は前月比マイナスが見込まれ、前年比でもピークは7月であった可能性が高い。上昇が続いていた石油・石炭製品は、原油価格の下落により9月以降マイナスが見込まれること、鉄鋼も原材料である鉄スクラップ価格が大きく下落したことからこれまでのような急上昇に歯止めがかかると思われること、化学製品もナフサ価格の下落から上昇が一服する公算が大きいことなどがその理由である。ただし、電気料金など一部の品目で値上げが予定されているものも多いことなどから、当面鈍化ペースは緩やかなものにとどまると考えられる。

○ 国内品の消費財は前年比+3.5%と引き続き高い伸び

国内品を需要段階別にみると、鉄くずが大きく下落したこと素原材料は前年比+4.4%（7月：同+17.7%）と伸び率が鈍化したものの、中間財は同+10.4%（7月：同+10.0%）、最終財も同+2.6%（7月：+2.5%）といずれも伸び率が加速した。消費者物価の財価格と関連の深い消費財は、国内品で同+3.5%と7月（同+3.7%）と7月から大きな変化はなかった。このことから考えると、8月の消費者物価指数も7月並もしくは若干の鈍化になる可能性が高い。

